

平成24年度教育研究活動報告書

氏 名	安達 巧	所 属	経済情報学部経済情報学科
学 位	博士（経済学）&修士（法学） （東北大学）	職 位	教授
専門分野	企業会計制度、会計監査人の責任、コーポレートガバナンス、コンプライアンス経営		
I 教育活動			
本年度担当科目			
学 部	会計学、経営分析論、簿記原理Ⅰ&Ⅱ、専門演習Ⅰ&Ⅱ、基礎演習Ⅰ		
大学院	会計学特論（本年度は履修者なし）		
II 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
（1）著書『ディスクロージャーとアカウンタビリティー—監査人としての公認会計士の責任—』創成社（2002）			
（2）著書『企業倫理とコーポレートガバナンス—知的資産の有効活用—』創成社（2002）			
（3）著書『会計基準の法的位置づけ—財務書類の真実性と会計・監査基準—』税務経理協会（2004）			
（4）著書『ベンチャー企業のファイナンス戦略—会社法の徹底活用—』（長島弘と共著）白桃書房（2007）			

<p>(5) 著書『会計制度の断面』ふくろう出版(2011)</p>	
<p>本年度を含む過去5年間の研究業績</p>	
<p>(1) 著書『会計制度の断面』ふくろう出版(2011)</p>	
<p>(2) 著書『内部統制・監査とブランドカ』ふくろう出版(2011)</p>	
<p>(3) 論文「IFRS導入とわが国の会社法会計・税法会計」『産業経理』第71巻第2号、2011年7月</p>	
<p>(4) 論文「中小会社における公正妥当な会計の指針のあり方」『會計』第181巻第3号、2012年3月</p>	
<p>(5) 論文「実効的な日本型コーポレートガバナンスの模索ーオリンパス事件を契機としてー」『産業経理』第72巻第2号、2012年7月</p>	
<p>現在の研究テーマ(3つまで)</p>	
<p>(1) JAL会計監査人の職業的懐疑心、監査判断及び監査責任</p>	
<p>(2) 会計監査人の監査責任に関する会計学の視点と法律学の視点</p>	
<p>(3) 企業不祥事(粉飾決算)事例とコーポレートガバナンス</p>	
<p>研究テーマの進捗状況</p>	<p>(1) & (2) については、平成25年9月の日本会計研究学会にて研究報告する予定である。(3) については、「企業不祥事」に終わりが無い現実を直視し、新たに発生する事例を常に検証し考察している。</p>
<p>学会、所属団体における活動</p>	

所属学会・所属団体 役職等

日本会計研究学会、日本私法学会、日本監査研究学会、日本経営学会、日本税法学会

Ⅲ 学内活動

(1) 大規模企業倒産における弱者（一般投資家）からの相談に対して学術的知見で応えた。

(2) 公認会計士試験の受験を希望する学外者に対してボランティアで指導した。

(3) ワインエキスパート資格を活かし、備後地区のソムリエ試験受験希望者への指導をボランティアで実施した。